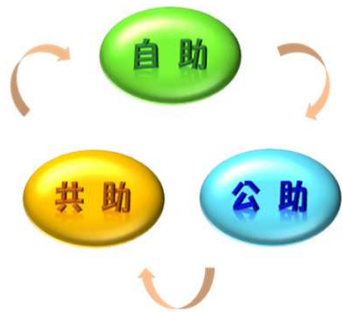


地域での防災

自助・共助・公助

災害は必ず発生します。日ごろから正しい防災知識を身に付け、地震や風水害などの様々な災害に対する備えをしておくことが必要です。

また、災害による被害を減らすためには、「自助・共助・公助」の連携が大切です。

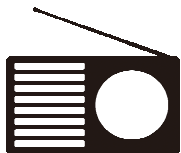


●**自助**とは、
住民一人ひとりが自分自身を災害から守ることで

●**共助**とは、
地域社会で助けあい、お互いを災害から守ることで

●**公助**とは、
国・県・市町村など行政が住民を災害から守ることで

まずは住民の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災の基本に立ち返り、自主防災組織の活動や地域の防災行事に積極的に参加して、助け合いの心あふれる安心で安全な地域社会をつくっていきましょう。



地震時における行動と判断

経過時間	行動すること	ポイント
地震発生～2分	自分の身を守る	激しい揺れは十数秒でおさまります。机やテーブルの下などで倒れてくるものから身を守って下さい。あわてて外へ出ないようにしましょう。寝室には倒れそうなものを置かないように特に頭の上には注意が必要です。
2～5分	火の元の確認 火の始末	揺れを感じた時は火の始末ではなく身を守ることを優先して下さい。揺れによって火傷を負う可能性がありますのであわてず大揺れが収まってから消火するようにしましょう。
5～10分	家族の安否確認 避難経路の確保	家族の無事を確認しましょう。家族内で事前に決まり事を作っておくと良いでしょう。揺れによって入口がゆがんでいたり、ドアや窓が開かなくなっていることが考えられます。割れたガラスなどに注意して、厚手のスリッパやクツを履き安全に避難しましょう。
10分～	近所の安全確認	近所で家屋が倒壊して埋もれている人や怪我をしている人はいないか火災は起きていないか確認しましょう。また小さな子には声をかけ安心感を与えるようにつとめましょう。

災害に対する備え・注意点

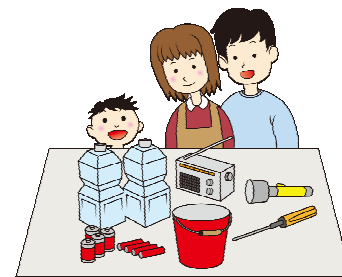
災害発生の恐れがある場合

- 気象情報や防災関係機関等の広報をよく聞いておきます。
- 状況によって遠出や外出は中止します。
- 避難場所について再確認します。
- 勤務先にいる家族などと連絡をとり非常時に備えます。
- 家財道具・食料品・布団・衣服など生活に欠かせないものを安全な場所へ移動します。



用意しておくもの

- 3日以上以上の非常食（調理不要なカップ麺やレトルト類）、飲料水を用意して断水や濁り水に備えます。
※飲料水は乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。
- 懐中電灯を家族にに応じて準備します。また、正しい情報を聞くためにラジオの用意もします。
※予備の電池も忘れずに。
- 大工道具も用意しましょう。



ため池決壊の起こり方とその被害

① 地震等で堤防が破損



② 破損した堤防が、貯水に耐え切れず決壊



③ ため池決壊による被害

- 大量の水や土砂が濁流となって押し寄せます。
- 建物や車は押し流されます。
- 道路や住宅地、田畑は土砂に埋まります。



ため池にこんな現象が見られた場合は、決壊の恐れがあります。すぐに避難しましょう。

- 堤防に亀裂がみられる。
- 張ブロックが壊れている。
- 堤防から漏水がみられる。

大雨に対する判断

地域によって異なりますが、1時間に20mm以上、また、降り始めから24時間の総雨量が80mm以上の雨が続いたら災害の危険が高くなります。浸水対策を含め十分な警戒が必要です。

災害時の対応

- 家が無事で、地域に火災がなければあわてて避難する必要はありません。
※ただし、火の手や煙が近くに見えたりききな臭いなどの危険を感じた時はすぐに避難しましょう。
- その地域全体が、危険と判断された場合には避難指示が発令されますのでそれに従い集団で避難して下さい。
※ただし、目前に危険が迫っているときは個人の判断で避難する必要があります。

事前の情報収集で、余裕を持った行動をしましょう！
ため池の異常に気がいたら、いち早く早島町役場へ連絡してください。
[建設農林課] (086) -482-0614